

地域資源の評価・活用と 持続可能な地域づくり

科学技術・学術審議会資源調査分科会
2011年6月23日、植田和弘(京都大学)

報告の概要

- 持続可能な発展論
- 持続可能な発展論の地域経済・地域社会への拡張・具体化：持続可能な地域発展あるいはルーラル・サステナビリティ
- 持続可能な地域発展・持続可能な地域づくりと地域資源
- 地域資源の評価問題
- 地域資源の評価に基づく活用
- まとめ

持続可能な発展論の着眼点

- ブルントラント委員会(1987)「現在のニーズを満たすと同時に、将来世代が自身のニーズを満たす能力も損なうことのない発展」の提起とその後の発展
- 発展(development)概念の見直し
- エコロジカルな環境的持続可能性と総合性(経済、社会、文化・・・)
- 世代間衡平と時間軸上
- 各論化傾向・実践志向の事例と新しい課題

P.Dasguptaの持続可能な発展論

- Dasgupta(2001, 2004, 2007)
- 生活の質・福祉 (well-being) の持続的向上
- well-being (QOL) の構成要素
- well-being (QOL) の決定要因
- 福祉の生産的基盤・・・資本資産と制度
- 4つの資本資産: 人工資本、人的資本、知識、自然資本
- 制度・・・資源配分メカニズム

持続可能な地域発展

- 持続可能な地域発展とは
- 地域の多様性と個性
- ダスグプタ理論(生活の質の決定要因)の適用 + α
- 地域福祉(well-being)の生産的基盤に着目する・・・資本資産(人工(社会)、人的、自然、知識) + 制度
- 地域にある資本資産を地域資源として活かす制度

地域資源の評価と活用

- 地域資源(地域の資本資産を地域福祉向上に資するように資源として活用する)
- 地域資源(地域資本資産)を価値づける評価問題・・自然(エネルギー)、森林、生態サービス、歴史的まち並み、アメニティ、文化的価値、人(芸術・文化・創造)・・潜在性の評価問題
- 地域資源の評価に基づく活用
- 地域資源を活かした持続可能な地域づくり